

目 次

〈巻頭言〉

集合的なグリーフという視点	島 蘭 進	1
---------------	-------	---

〈特集～グリーフケアの持続的な発展のために～〉

新しい老人観を求めて —「死にゆく者の孤独」からの回復—	松 下 正 明	3
人様のことと、我がことと	山 田 了 士	11
Worden の著書『悲嘆カウンセリング』と対話して	山 本 力	17
自殺事故後の医療者のケア	河 西 千 秋, 津 山 雄 亮, 成 田 賢 治	25
子どもへのグリーフサポート —地域で寄り添い、支えあうために私たちができること—	佐 藤 利 憲	31
遺族の精神的苦痛に有効な向精神薬について —遺族ケアガイドラインから—	阪 本 亮, 蓮 尾 英 明	39
遷延性悲嘆症の集団認知行動療法	松 田 陽 子, 大 岡 友 子	45
悲しむ営みの場としての M&M カンファレンス —チームでの振り返りを通じた意味の再構築過程を中心に—	鷹 田 佳 典	53
救急領域における意思決定と地域で共有する アドバンスケアプランニングの可能性	椿 美智博	61

〈原著〉

がん患者遺族を対象としたサポートグループが複雑性悲嘆の予防に及ぼす効果の検討	大和田 攝 子, 大和田 康 二	67
---	------------------	----

〈実践報告〉

児を亡くした親たちが訴える「国・自治体への7つの要望」 —親への実態調査結果を厚生労働省に届けるまでの実践報告—	遠 藤 佑 子, 大 竹 麻 美, 菅 原 美 帆	79
--	---------------------------	----

〈書評〉

入江杏 編著

『悲しみとともにどう生きるか』	大河内 大 博	87
投稿規程		89
執筆要項		91